

平成31年(2019年)版

Yomo Yomo

～10代のあなたに～

あなたの知らない『しごと』の世界

『カッコいいぞ！職人本』 カッコいいぞ！職人本制作委員会／著
とらいち 寅吉／監修 クロスメディア・パブリッシング 2015年発行



とびしょくにん 鳶職人、内装職人、クレーン運転士など、建設現場で働く職人たちの仕事のおもしろさやカッコよさを、ひとりでも多くの人に知ってもらいたい。そんな思いから、この本は生まれました。

仕事に欠かせない道具の紹介から、職人ごとに求められる能力、さらに機能的かつスタイリッシュなファッションまで、情報が満載です。



あした
『明日の子供たち』
ありかわ ひろ 有川 浩／著 幻冬舎 2014年発行

児童養護施設『あしたの家』には90人の子供たちが暮らしている。
みたむらしんべい 三田村慎平は希望にあふれて働き始めたが、着任早々、「勝手なことをしないで」と先輩から怒られてしまう。善意や熱意だけではいけない、と。子供と大人、「生活の場」と「職場」、立場の違いも踏まえつつ、進路や仕事の壁にそれぞれが悩みながら、明日に立ち向かっていく。

『東京ディズニーリゾート キャストの仕事』

講談社／編 講談社 2015年発行

「キャストの役割は、東京ディズニーリゾートをおとずれる、すべてのゲストにハピネスを提供すること」。その思いを胸に、清潔な環境づくりのため、ゲストの安全を守るため、といろんな場所で働くキャストたち。彼らの一日の仕事内容や、仕事に対する思いを知ることができる一冊。あなたはどの仕事をしてみたいですか？



©Disney/講談社刊

70代の知らないしごとの世界



『15歳のコーヒー屋さん 発達障害のぼくができることからぼくにしかできないことへ』

岩野 響／著 ひびき KADOKAWA 2017年発行

発達障害を持つ響さんは中学1年生の冬から学校に行かず、家族のために夕飯を作るようになりました。ある日、スパイスから作るカレーの隠し味に入れたコーヒーに魅せられていきます。コーヒーについていろいろな人に学ぶなかで、自分にもできることがあると気づきます。

今、響さんは、焙煎士ばいせんしという大好きな仕事をしています。

『十三世紀のハローワーク』

グレゴリウス山田／著 一迅社 2017年発行

『戦国時代のハローワーク 職業図鑑』

ライブ／編著 カンゼン 2017年発行



現代の私たちと同じように、中世ヨーロッパや戦国時代の人々も、様々な職業によって生計を立てていた。刀鍛冶かたな かじや酒造しゅぞうなど、今でも受け継がれている仕事から、錬金術師れんきんじゆつしや吟遊詩人ぎんゆうしじんなど、まるでゲームの世界のような仕事まで。職業を通じて、歴史の世界をのぞいてみよう！

『水族館で働くことになりました』

ひだか 日高トモキチ／著 KADOKAWA 2015年発行



私たちに水の生きものたちの暮らしを見せてくれる水族館。主人公のマユミは水族館が大好きで、念願かなってあこがれの水族館飼育員として働き始めましたが、生きものが相手の飼育員の仕事は、思うようにいかない事だらけ！驚きがいっぱいで、読めば水族館に行くのが何倍も楽しくなる、お仕事コミックエッセイです。

編集・発行：箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館
問い合わせ先：箕面市立中央図書館
TEL 072-722-4580 FAX 072-724-9697
発行日：平成31年(2019年)1月



箕面市立図書館
ホームページ

☆YomoYomoは箕面市立図書館のホームページからも確認できます。 箕面市立図書館 おすすめの本

検索

どれを読んでもおもしろい!

ベストセクション

いつまでも楽しく読める品質保証付の本

『潮風エスケープ』

額賀 滯 / 著 中央公論新社 2017年発行

勝手に決められた人生から逃げ出したい。高校生の深冬は、普通じゃない何かを求めて、民俗信仰を研究している大学のゼミに通う。ゼミの夏合宿で訪れた離島では、12年に1度行われる奇祭に向けての準備が進んでいた。12年前に伝統から逃げ出した者、固く守り続ける者……多くの考えに出会い、深冬も自分の人生を見つめていく。



『ぼくのとなりにきみ』

小嶋陽太郎 / 著 ポプラ社 2017年発行

自由奔放なハセと真面目なぼくは、小学生の頃からの親友だ。そこに、転校生で天然な女子の近田さんが加わった。3人で一緒に山を探検し、川で遊んで過ごすうちに、なんとなく仲良くなった。勉強が苦手な、どんくさい近田さん。教えてあげてもすぐ理解してくれないから、正直いらっとする。でも、なんだか放っておけない。



『タイムボックス』

アンドリ・S. マグナソン / 著 野沢佳織 / 訳 NHK出版 2016年発行

時を止めるタイムボックスに家族全員が入ったはずが、なぜか少女シグルンの扉だけが開いた。不景気でない時代になったら自動的に扉が開く設定にしていたのに、町は草木がしげりすっかり荒れ果てている。彼女はマルクスという子どもに助けられて、この世界でたった一人の大人、グレイスの元へ行くことに。そこでシグルンはタイムボックスの謎に関わる壮絶な長い物語を聞くことになった。



『さよなら、田中さん』

鈴木るりか / 著 小学館 2017年発行

中学二年生作家のデビュー作。花実の家はビンボーな母子家庭で、「もし死にたいくらい悲しいことがあったら、とりあえずメシを食え」と言う明るくたくましい母と暮らしている。顔も知らない父のこと、お金がなくて友達と遊びに行けないことに悩んだりもするけれど、銀杏拾いには手を抜きません!



『ぼくたち負け組クラブ』

アンドリュー・クレメンツ / 著 田中奈津子 / 訳 講談社 2017年発行

アレックは授業中に本を読んでいるため、いつも先生から注意を受けている。しゅしゅ、放課後プログラムに参加することになった彼は、新しいクラブを作ろうと思いつく。静かにゆっくり本を読むためには、クラブの人数は少ない方がいい。名前は「負け組クラブ」にしよう。アレックのねらいは当たるのか?



『王妃の帰還』

柚木麻子 / 著 実業之日本社 2013年発行

クラスのナンバー1が罨にかかり、その座から引きずり降ろされた! お嬢様学校で有名な私立学校中等部2年B組。トップグループから追放された彼女が、範子たちのいる最下層のオタクグループにやってきたことで、クラスの間関係が大混乱。範子たちはクラスとグループの平和を取り戻すため、彼女をトップの座に戻そうと決意する!



『パンツ・プロジェクト』

キャット・クラーク / 著 三辺律子 / 訳 あすなろ書房 2017年発行

私はリヴ。中学校初日に鏡に映った制服姿を見て怒りの涙が出た。私にとってスカートは最低最悪。制服の校則を変える作戦をいくつか考えた。家族に心配はかけたくない。友だちには相談できない。そう思い込んでいたけど、隣の席のジェイコブに初めて悩みを打ち明けると力になってくれた。うまくいく気がしてきた。

